

地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人的側面（HD）分科会
（第24期・第5回）及び KLaSiCa 小委員会（第24期・第2回）合同会合
議事要旨

1. 日時：平成 30 年 12 月 16 日（日）10:00~12:00
2. 会場：東京大学農学部農経特別資料室 121-1 号室
3. 出席者：氷見山幸夫（委員長）、阿部健一、石川義孝、岡本耕平、近藤昭彦、櫻井武司、中村桂子、春山成子、山口しのぶ、吉田謙太郎、亀山康子（以上、HD 分科会委員）
阿部健一（委員長）、岡本耕平、櫻井武司、氷見山幸夫、阿部治、内海成治、高野孝子（以上、KLaSiCa 小委員会委員）
（欠席：篠田雅人、城山英明、山形与志樹、山田高敬、桃木至朗、上田信行、中野民夫、渡辺政隆）
4. 配布資料
 - ・ JpGU 2019 年大会国際セッション (Implementing Integrated Research for Sustainable Future) 要旨
5. 議事
 - (1) HD に関する国際的・国内的動向について
 - ・ 氷見山委員長より近況が報告された。9 月に WSSF (世界社会科学フォーラム) が福岡で開催された。全体で 900 人ほどの参加者。ISC (国際学術会議) が発足後初めて開催した大きな会議。日本学術会議と九州大学がローカルオーガナイザーとして尽力し、大役を果たしたが、事後、会議報告を HP にアップする等のフォローアップが必要。関連して石川委員より、IGU 日本委員会主催の招待セッションについて報告があった。
 - ・ 阿部健一委員より、10 月に開催された KLaSiCa 第 2 回ワークショップの報告があった。日本からは高野委員が参加した。
 - ・ 阿部治委員より 11 月 30 日-12 月 1 日に開催された第 3 回 ESD 全国フォーラムについて報告があった。280 人ほどが参加。ESD 推進拠点として、全国で 63 拠点が認定されている。日本の特徴として、学校教育だけでなく、自治体や産業界、多様なステークホルダーを巻き込んでいる。さらに、第 20 回日中韓環境大臣会合 (TEMM20) に関連して、環境教育のセッションを担当した。UNESCO ジオパーク、エコパーク (正式名称は Man and Biosphere (MAB) だが、浸透しづらいので通称がエコパークとなった)。以上の報告に対して、エコパークと ESD の連携の必要性が指摘された。
 - ・ 氷見山委員長より、中国では国立公園、ジオヘリテージ、ジオパークといった多様な指定地区の統合的管理が検討されているという指摘があった。
 - ・ 山口委員より、前日都内で開催された文科省 Super Global High School 全国発表会について報告があった。今までに 123 校が対象となっている。SDGs に関して自分たちの高校が海外の高校と連携して何ができるかというテーマで高校生が英語で議論していた。全体的に水準が高かった。
 - (2) 公開シンポジウム「地球システムと私たちの生活—人新世時代の想像力」打ち合わせ
 - ・ 各講演者が講演内容の概要を紹介し、意見交換をした。
 - ・ 進行と役割分担について最終調整をした。
 - (3) JpGU 2019 年大会国際セッションについて

氷見山委員長より国際セッション **Implementing Integrated Research for Sustainable Future** について配布資料に基づき報告された。大会の日程は 2019 年 5 月 26 日（日）～30 日（木）、会場は幕張メッセ国際会議場、当該セッションは 28 日（火）午後後半、多くの発表者、参加者を望む。

(4) 公開シンポジウム後の活動について

前回の分科会からの継続審議課題として 2 回目のシンポジウムの開催、提言の作成等について議論し、この会議の後に開催される公開シンポジウムの成果を踏まえ、次回の分科会で詰めることとした。

(5) その他

次回は 4 月第 1 週、4 月 4 日（木）を第一候補としつつ学会議の部屋の空き具合等を確認の上決めることになった。